

第7回からだところろの健康シリーズ

「病いの女性史・・そして今の私たち」まとめ

南出 成子

と き：2011年6月30日（木） 13:00～15:00

参加者：15名

人間の歴史は、病気との闘いの歴史であるといっても過言ではありません。太古からの時代別にみると、日本人の平均寿命や、身長や頭の形、鼻の高さが変化してきたのは、米作によって食料が備蓄できるようになったことが大きい理由であると考えられています。

また、長い間、女性が命を落とす大きな原因であった産褥熱は、近年になってようやく克服することができました。

産褥熱だけでなく、ほとんどの感染症が克服されてきていることは、近代医学の勝利であると言えるでしょう。

明治以後の日本では、結核は亡国病と言われるほどの猛威を振るい、樋口一葉をはじめ、多くの青年男女が死亡しました。

多くの病気を克服してきた半面、また最近、新しい病気も問題になってきています。糖尿病をはじめとする生活習慣病、新型インフルエンザ、がん、認知症、熱中症など・・・超高齢社会を迎えて、新しい課題を抱えることになっています。

日本だけでなく、世界の4大文明の昔から、死者をいたむ心や、子供や弱者を保護する気持などは、現代人と変らなかつたことが、科学的に証明されています。

いつの時代も、家族を大切に、愛情豊かに生活を営んできた人間の歴史を時に振り返ることも意義あることでしょう。

(今回のレジュメ参照)

質疑討議のなかで、今年の課題として熱中症対策の必要性が話し合われました。

節電の掛け声も高く、昨年以上に熱中症の対策に注意することが重要です。



